

林業遺産：

多様な森林・林業の歴史を後世に

東京農工大学大学院農学研究院 竹本太郎

林業遺産選定事業の概要

平成 25 (2013) 年度に開始された日本森林学会林業遺産選定事業は、今年で 7 年目を迎えた。林業遺産選定事業とは、「林業遺産選定内規」によれば、「日本各地における特徴的な森林利用・林業発展の歴史を示す対象を林業遺産として認定し、将来にわたって記憶・記録されるよう、対象の保護・管理・認知・普及を支援するもの」で、林業遺産の選定対象は下記のように多岐にわたっている。(1) 林業景観(用材林、防災林、薪炭林、特用林産物生産林等の森林の利用に関する景観)、(2) 林業発祥地(有名・独特な施業体系をもつ林業の発祥地)、(3) 林業記念地(記念植樹、旧係争地等の森林利用に関するメルクマールの意味を持つ土地)、(4) 林業跡

表-1 これまでに選定された林業遺産

年度	No.	対象名	都道府県
2013	1	「太山の左知」をはじめとした興野家文書	栃木
	2	旧木曾山林学校にかかわる林業教育資料ならびに演習林	長野
	3	全国緑化行事発祥の地	茨城
	4	木曾森林鉄道(遺産群)	長野
	5	四国森林管理局保存の大正～昭和初期の林業関係写真	高知
	6	飯能の西川材関係用具	埼玉
	7	いの町の森林軌道跡	高知
	8	東京大学樹芸研究所岩櫛園クスノキ林	静岡
	9	大学演習林発祥の地：浅間山(千葉県鴨川市)	千葉
	10	猪名川上流域の里山(台場クスギ林)	兵庫
2014	11	天然林施業実践の森「東京大学北海道演習林」	北海道
	12	飢肥林業を代表する弁甲材生産の歴史	宮崎
	13	吉野林業	奈良
	14	越前オウレンの栽培技術	福井
2015	15	若狭地域に継承された 研磨炭の製炭技術	福井
	16	若狭地域の里山における熊川葛の生産技術	福井
2016	17	伊豆半島の森林史に関する資料	静岡
	18	小石原の行者杉	福岡
	19	屋久島の林業集落跡及び森林軌道跡	鹿児島
	20	蒸気機関車「雨宮 21 号」と武利恵・上丸瀬布森林鉄道遺構群	北海道
	21	初代保護林 白髪山天然ヒノキ林木道伝資源保存林	高知
	22	木曾式伐木運材図会	長野
	23	足尾における治山事業による緑の復元	栃木
	24	矢部村における木馬道と木場作林業	福岡
	25	我が国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関係資料群	青森
2017	26	旧帝室林野局木曾支局庁舎および収蔵資料群	長野
	27	日本近代砂防の祖・諸戸北郎博士の設計による溪間工事建造物群	愛知
	28	遠山森林鉄道の資料および道具類・遺構群	長野
	29	海部の樺木林業	徳島
	30	進徳の森と中村弥六の関連資料群	長野
	31	北山林業	京都
	32	十勝三股の林業集落跡と森林景観	北海道
2018	33	木地師文化発祥の地 東近江市小椋谷	滋賀
	34	琉球王朝時代の多良間島の「抱護」と「林政八書」	沖縄
	35	郡上林業の歴史と技術を伝承する資料・展示と社叢林	岐阜

地(施業跡地、土場・炭焼き等の利用跡地)、(5) 搬出関連(森林軌道、林道、筏場、木馬道等。現存・跡地を含む)、(6) 建造物(林業発展の歴史を示す建造物。現存・跡地を含む)、(7) 技術体系(林産物加工技術、施業計画等)、(8) 道具類(地域の林業発展を特徴づけるまとまった道具類)、(9) 資料群(林業関連のまとまった古文書・近代資料、写真、映像等)。1 件の遺産が、たとえば「林業景観」と「資料群」など、複数の項目で選定されることが多い。

これまでに、平成 25 年度 10 件、26 年度 4 件、27 年度 2 件、28 年度 7 件、29 年度 8 件、30 年度 4 件の計 35 件が選定された(表-1)。35 件のうち長野県に 6 件が集中している一方で、東北地方は青森県の 1 件だけになっているが、徐々に全国各地から遺産が選定されるようになってきている。以下、著者が選定に関わったものからいくつかを紹介したい。

飯能の西川材関係用具 (No. 6 平成 25 年度)

西川林業は、近世・江戸時代にかけて武州西方の名栗川(入間川上流)・高麗川を中心とする流域(現在の埼玉県西部地域)に成立し、そこから産出される材木が西川材と呼ばれた。

飯能市郷土館には、植え付けから伐採、製材に至るまで、西川材生産のほぼ全ての過程を網羅した道具類が、市民からの寄贈を受けるかたちで保存・展示されている。コレクションは全部合わせて 448 点にもなる。大きく分類すると、苗木を植えるのに用いた「トウグワ」などの育林用具(45 点)、「ヨキ」や「ノコ」などの伐採用具(115 点)、杉皮を剥くために使用した「カワマワシ」などの皮剥用具(56 点)、木材を動かすための「トビ」や運搬のための「ソリ」などの搬出用具(76 点)、筏製作に使用した「メドキリ」などの流送用具(12 点)、角材に加工するための「ケズリヨキ」や材

木を板にする木挽こびきに使用した「マエビキノコ」などの製材用具（105点）、仕事着である「シルシバンテン」や雨具である「ミノ」などの衣類（22点）、信仰用具（9点）、その他（8点）となる。



写真1 飯能市郷土館で林業の道具類を見学する大学生

資料の貴重さ、及び所有者・管理者レベルでの普及・保存活動が評価されて（写真1）、「飯能の西川材関係用具」は、平成25年度に最初に選定された10件の一つとなった。

足尾における治山事業による緑の復元 (No.23 平成28年度)

足尾鉱山は、明治20年代には国内の銅の総生産量の40%近くを占める日本一の銅山へと変貌へんぼうしたが、この近代化の過程で、森林の過剰な伐採が行われるとともに、松木村の大火により1100ha余りの森林が失われ、大規模な荒廃地が発生することとなった。明治30（1897）年、国は東京大林区署（現在の関東森林管理局）及び栃木県・群馬県に対し訓令を発出し、足尾官林復旧事業を開始した。事業はその後、足尾国有林復旧事業と名称を変え、治山事業や造林が続けられたが、煙害被害の終息は困難を極めた。

戦後、治山事業は昭和22（1947）年に国有林を中心に前橋営林局により再開、昭和31（1956）年には国と栃木県との間で協議により、現在にいたる役割分担ができる。その後の植生袋・植生土囊どのおう・植生マット開発の基礎となった植生盤（土と肥料と種子を混ぜて固めたもの）による筋工やヘリコプターによる航空実播工を本格的に導入し、緑化技術の発展にも貢献した。

こうした取り組みの結果、昭和31年には約1万3000haあった荒廃地（うち激甚荒廃地3155ha）のうち、民有林、国有林合わせて1448haの緑が回復し、現在では、降雨後に河川が濁ることがほとんど無くなるとともに、明治から大正にかけて多数発生した土砂流出なども見られなくなっている。長期にわたる治山事業による緑の復元を後世に伝えるた

め林業遺産として選定された。負の遺産としての教訓的な意味も兼ねていると思われる。

遠山森林鉄道の資料および道具類・遺構群 (No.28 平成29年度)

長野県飯田市の南東部に位置する遠山郷の遠山川沿いには豊かな御料林が広がっていた。遠山森林鉄道は、これを伐採・搬出するために帝室林野局木曾支局が昭和19年に敷設したもので、戦後は国有林となり、昭和43年末に飯田営林署が搬出事業を終えたが、民間事業者による運材が昭和48年まで続けられた。本州で最も遅くまで運行していた森林鉄道の一つであり、地元では愛着を込めて「林鉄」と呼ばれている。

林鉄の基地で、貯木場があった木沢地区では平成12年の小学校閉校を機に活性化推進協議会が発足し、木造校舎や跡地に地域の資料や写真、思い出を展示している。森林鉄道の資料や道具類は主たる展示物で、校舎2階の「林鉄資料館」には2000分の1の線路図や写真、工具・電話機・標識にぎなど道具類が展示され、地域がかつて林業で賑わっていたことを思い出させてくれる。木造校舎から歩いてすぐのところにかつての梨元貯木場跡地がある（写真2）。別の場所で朽ちかけていた機関車96号と客車を有志が平成11年にここに運び込んで整備を開始し、平成23年には「夢をつなごう遠山森林鉄道の会」を発足させた。その後も客車や車庫を造り、レールも350mに延長し周遊コースにした。今後は植栽をして森林公園にすることを目指している。

軌道跡は、起点の旧梨元貯木場より北又渡停車場跡まで約10kmがほぼ当時の線形のまま残されている。隧道や橋梁すいどう きょうりょうの遺構も残っており、増水時に冠水してもよいという「沈下橋」である「大野の橋」はなかでもきわめて珍しい。また、随所に見られる石積み擁壁が建設当時の土木技術を今に伝える。保存活動が住民主導で行われている点も高く評価されて選定された。



写真2 「梨元ていしゃば」に展示されている客車